

シリア内戦開始から13年近くが経過した今なお、隣国レバノンでは100万人のシリアからの難民が避難生活を送り、加えてシリア危機以前よりレバノンには約28万人のパレスチナ難民が生活しています。彼らの多くは、難民キャンプやテント、バラック等の劣悪な環境で生活を続けています。

レバノンでは、2019年秋から続く経済危機に加えて、2020年には新型コロナウイルスの感染拡大や首都ベイルートの港湾で大規模な爆発事故も発生するなど、4年以上にわたり複合的な危機状態が続いています。こうした中、停電や食料、燃料、医薬品などの不足、価格の高騰が、難民家族などのレバノンに暮らす貧困層の生活を直撃しています。

また、昨年10月以降、イスラエルとパレスチナ自治区・ガザの危機が派生し、イスラエル北部とレバノン南部の国境周辺を中心に、イスラエル軍とイスラム教シーア派組織ヒズボラとの間で攻撃の応酬が続き、緊張が高まっています。2024年1月時点でのべ80,000人以上の国内避難民が新たに発生し、さらなる社会経済状況の悪化が懸念されます。

パレスチナ子どものキャンペーンでは、1986年の活動開始以来、レバノンでの難民支援を続けており、彼らを取り巻く環境が非常に厳しい現在の状況においても、子どもたちや家族が希望を捨てず、子どもたちが将来自立した生活を送れるよう、子どもたちへの学習支援や幼児教育、歯科や精神科などの保健支援、家族支援も含めた心理社会的サポートなどを行っています。また、命をつなぐ食料支援や越冬支援も行っています。



絵を描く園児（シャティエーラ難民キャンプ幼稚園）



卒園式の様子（ブルジバラジネ難民キャンプ幼稚園）



算数のワークシートを解く児童（ブルジバラジネ難民キャンプ子ども歯科）



歯科クリニックを見学する園児（シャティエーラ難民キャンプ子ども歯科）



歯科治療を受ける子ども（バダウィ難民キャンプ子ども歯科）



受け取った食料パッケージを見つめる子ども（ワーベル難民キャンプ食料支援）